星陵台中学校では、令和5年度から朝日放送グループが公開した阪神淡路大震災の取材映像「激震の記録 1995 取材映像アーカイブ」を活用して防災学習に取り組んでいます。避難所の厳しい現実や、食糧、トイレの実態など、都市直下型地震でどんなことが起こるかを、リアリティをもって学ぶことができます。

関東大震災から 100 年が経過し、首都直下地震の発生が危惧される中、いつ起こってもおかしくない首都直下型地震に備えるために、阪神淡路大震災の取材映像でどんなことが学べるのか。これからの防災教育を考えます。

以下、本校の活動のようすが紹介されました。

取材映像アーカイブの活用事例 ABC

震災映像からSDGsを考える 神戸市立 星陵台中学校

震災映像を活用して授業を行いました。しかもテーマは「防災」ではなく「SDGs」でした。地震が起こったら学校に行けない、安全な水とトイレも提供できない、食べ物がなくなる、仕事もできなくなる・・・SDGs が目指す持続可能な社会を壊すのが災害です。映像を見て「このシーンが SDGs の何番に関係しているか」を尋ねられた生徒たちは、思い思いに答えを出しましたが、最終的には SDGs の 17 の目標がすべてつながっていると気づきます。そしてある生徒は、17 番=「パートナーシップで目標を達成する」ことの重要性を提案してくれました。